

# 第17回川崎病全国調査成績

厚生労働科学研究費補助金による子ども家庭総合研究事業  
川崎病の発生実態及び長期予後に関する疫学的研究班  
(2002-2003年度)

[連絡先] 〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-1  
自治医科大学公衆衛生学気付  
川崎病研究班疫学調査事務局  
連絡担当 屋代真弓、上原里程

TEL 0285-44-6192

FAX 0285-44-7217

2003年9月1日

# 第17回川崎病全国調査成績

## はじめに

1970年以來2年に1回の間隔で16回にわたって、川崎病全国調査が行なわれてきた<sup>1-27)</sup>。今回2001年～2002年の2年間の患者を対象に実施した第17回川崎病全国調査の成績がまとまった。2年間の調査成績より、報告患者数、初診年月分布、性・年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、心障害例（急性期、後遺症）、初診時病日およびガンマグロブリン治療開始時病日、退院時病日および初診から退院までの日数、ガンマグロブリン治療、主要症状の出現頻度、有熱期間等の疫学像が明らかになったので、一部前回の調査成績と比較しながらその概要を報告する。

## I. 方法

第17回川崎病全国調査は、2001年1月1日より2002年12月31日の2年間に小児科を併設する100床以上の病院、および小児科のみを標榜する100床未満の専門病院を受診した川崎病初診患者を対象にした。調査を依頼した施設のリストは、厚生省健康政策研究会編「病院要覧2001-2002年版」（医学書院発行）によって作成した。対象候補施設数は2,455か所であった。（添付の調査票参照）

## II. 調査結果

### 1. 回収率

依頼状、調査票等を送付した2,455施設のうち、廃院等の連絡があった42施設を除く2,413施設を調査対象とした。回答は1,642施設から得られ、回収率は68.0%であった。そのうち、患者報告があった施設は1,052施設（回収施設の64.1%）であった。回収率は、都道府県によって40.0%～83.3%の開きがみられた。

### 2. 年次推移

今回の調査で報告された2年間の患者数は、2001年8,113人、2002年8,839人のあわせて16,952人であった。性別患者数は、男9,744人、女7,208人で、2年間平均の罹患率は0-4歳人口10万対145.0（男162.7、女126.5）であった。患者数の性比は1.35、罹患率の性比は1.29で男が多かった。過去16回に報告された患者を含めると2002年12月末までの患者数は、合計186,069人（男107,876人、女78,193人）になった。患者数の年次推移をみると、表1、図1に示すように、男女とも着実に増加している。これまでに1979年、1982年、1986年の3回にわたり全国規模の流行がみられ、1994年以降は急勾配で増加していた。1999年には患者数が7,000人を超え、第1回目の流行年（1979年）よりも多くなった。さらに2000年には8,000人を超え、2002年は8,800人を超えた。この数は史上第3位である。罹患率の年次推移をみると、表1、図2に示すように、3回めの流行直後に比べて、1998年には51%増加して0-4歳人口10万対111.5になった。さらにここ数年の増加は著しく、2000年には90%増加して140を超え、2002年には2倍以上になった。最近の患者発生状況からみて、川崎病の原因究明を目的としたさらに強力な研究体制の確立が必須である。また、地域ごとの患者発生動向の監視体制を一層強化する必要がある。

### 3. 月別推移

最近4年間の月別、性別患者数を図3に示す。患者数は各年とも同じような傾向で、すべての月で男が多くなっている。また、10月は少なく、1月は多かった。特に2002年1月の男の患者数は前年10月の約2.4倍も報告され、いずれかの地域で流行があったことが示唆される。

### 4. 性・年齢分布

患者数の性・年齢別分布をみると、3歳未満の者の割合は全体の67.0%（男68.5%、女65.0%）であり、若年患者の割合は前回よりも少なめであった（表2）。2001年、2002年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも9-11か月にピーク（0-4歳人口10万対男294.8、女194.4）がみられ、男は一峰性の山、女は6-8か月に小さな窪みをもつ二峰性の山がみられた。罹患率の性比は、月齢が9-11か月の者で最も大きく1.52であった（図4）。

## 5. 地域分布

2年間の患者住所都道府県別報告数の最も多いのは、東京 1,661 人、次いで神奈川 1,388 人、大阪 1,109 人、愛知 979 人の順であった。観察した兩年の年次別都道府県別罹患率を0-4歳人口10万対の割合で計算した（都道府県別罹患率の分母は、2000年国勢調査人口を使用し、全国の罹患率は各年次の推定人口を用いて計算した。ただし2002年は前年の人口を使用）。兩年とも罹患率が著しく高いところは、群馬、福岡、和歌山、福井などであった。また2年間とも低いところは、鳥取、沖縄、富山などであった（表3）。

1999年～2002年の各年について、都道府県別罹患率の地図を作成した（図5-a、図5-b）。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ患者数があると仮定して回収率を100%に補正して、0-4歳人口10万対罹患率の地域差を示した。1999年に関東、近畿、四国、九州の一部の地域に罹患率の高いところがみられたが、2000年には、九州から関東まで多くの都道府県に罹患率の高いところが拡大していた。また、東北の一部の県と北海道もやや高い罹患率を示していた。2001年には、関東甲信越を中心とした内陸部に流行が集中しているように見え、九州、中国、近畿、東北の一部の県も高くなっていた。2002年には再び北海道から九州まで幅広い地域で患者数の増加がみられた。このことから全国規模の大流行というより、地域ごとの小規模な流行が全国のいろいろな地域で繰り返されていると推測される。

## 6. 診断

診断基準への一致度をみると、定型例83.8%（男84.0%、女83.6%）、不定型例3.0%（男3.3%、女2.5%）、容疑例13.2%（男12.7%、女13.9%）であった。

なお、定型例（調査票では「确实A」とした）は「川崎病診断の手引き 改訂5版（2002年2月に診断の手引きが改訂され、第17回全国調査から改訂5版を使用）」に示された6つの主要症状のうち5つ以上の症状を伴う者、不定型例（「确实B」）は4つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは、心血管造影法で、冠動脈瘤（いわゆる拡大を含む）が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また容疑例（「容疑」）は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断した者をいう。なお、第17回全国調査では診断の手引きに示された主要症状6項目（発熱については有熱期間を含む）を調査項目に加えたので、これらの項目と、心障害に関する項目から、定型例、不定型例、容疑例の分類ができるが、本報告書では、従来通どおり、診断の确实度の欄に記載された区分によって集計した。

## 7. 家族歴

同胞例ありの割合は報告患者中1.3%（男1.2%、女1.3%）であった。

性・年齢別にみると、男女とも3歳以降で年齢とともに増加する傾向がみられた。前回より調査項目に加えた、両親のいずれかに川崎病の既往歴ありの者は32人（父14人、母18人）報告され、報告患者中0.19%（男0.16%、女0.22%）であった。前回は35人（父8人、母27人）報告され、報告患者中0.23%（男0.28%、女0.15%）であった。父の既往歴ありが母に比べて少ないのは、既往歴に関する父の情報が得にくいためと考えられる。

## 8. 再発例

再発例の割合は報告患者中3.6%（男3.7%、女3.5%）であった。

性・年齢別にみると男女とも年齢とともに増加していた。

## 9. 死亡例

死亡例は2年間に2人（男2人、女0人）報告され致命率は0.01%であった。死亡例はいずれも初診時年齢が1歳未満であった。

## 10. 心障害例

心障害については、発病後1か月以内に出現した急性期の心障害と1か月以降も残存する後遺症にわけて調査を実施した。

報告患者中の心障害例（急性期）の割合は16.2%（男18.6%、女13.0%）、心障害例（後遺

症)の割合は5.0% (男5.9%、女3.8%)であり、後遺症は急性期に比べて男女とも約1/3に低下していた。両者とも男が高率を示し、性・年齢別にみると男女とも6か月未満の若年児と高齢児が高く、2歳に窪みをもつゆるやかなU型のカーブを示していた(図6)。

心障害(急性期)の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大12.97%、瘤1.96%、弁膜病変1.58%、巨大瘤0.27%、狭窄0.05%、心筋梗塞0.02%であった。男女別にみると狭窄、弁膜病変以外は男が高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤、拡大、狭窄、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられた。中でも巨大瘤は2歳以上が2歳未満にくらべて2倍以上の出現率であった。

心障害(後遺症)の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大3.13%、瘤1.36%、巨大瘤0.29%、弁膜病変0.31%、狭窄0.06%、心筋梗塞0.04%であった。男女別にみると、心筋梗塞、弁膜病変以外は男が高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、瘤、拡大の出現率は2歳未満でやや高率にみられ、それ以外は2歳以上に高率にみられた。急性期と同様に2歳以上の巨大瘤の出現率は2歳未満に比べて2倍以上であった(表4)。

### 1 1. 初診時病日およびガンマグロブリン治療開始時病日

患者の初診日は第4病日が最も多く23.3%であり、第4病日までに受診した者は63.4%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第4病日までに受診した者は2歳未満の者では69.1%を占めていたが、2歳以上の者では57.5%であり、2歳未満の若年児が早く受診する傾向を示していた。

ガンマグロブリンの投与開始日は第5病日が最も多く34.8%であった。年齢別にみると、2歳未満が早く投与を開始する傾向がみられ、第5病日までに投与を開始した者の割合は2歳未満では68.4%、2歳以上では57.1%であった(表5)。

### 1 2. 退院時病日および初診から退院までの日数

患者の退院時病日は第13-15病日が最も多く20.1%であり、第21病日までに退院した者は72.9%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第21病日までに退院した者は2歳未満の者が72.9%、2歳以上の者は73.0%であり、年齢差はみられなかった。

初診から退院までの日数は9日以内が最も多く20.3%であった。15日以内に退院する者は59.0%を占めており、年齢別にも差はみられなかった(表6)。

### 1 3. ガンマグロブリン治療

ガンマグロブリンの治療を受けた者は86.0% (男86.6%、女85.2%)を占めていた。

ガンマグロブリン1日あたりの投与量は、900 - 1099mg/kgの者が最も多く44.1%、次いで300 - 499mg/kg26.7%、1900 - 2099mg/kg20.9%となっていた。200mg/kg、400mg/kg、1000mg/kg、2000mg/kgちょうどと、その他という区分では、1000mg/kgが最も多く42.1%、次いで400mg/kg21.8%、2000mg/kg20.3%の順であった。投与期間は1日が最も多く、37.3%、次いで2日30.4%、5日25.2%であった。前回に比べて1日、2日の大量投与がさらに増加した(表7)。

ガンマグロブリンの1日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900 - 2099mg/kgが最も多く70.2%、次いで900 - 1099mg/kgが16.5%、2100mg/kg+が3.7%であった。1000mg/kg、2000mg/kgちょうどと、その他という区分では、2000mg/kgが最も多く68.0%、次いでその他16.9%、1000mg/kg15.1%の順であった(図7)。

### 1 4. 主要症状の出現割合

主要症状の出現割合は、発熱99.3% (男99.3%、女99.2%)、眼球結膜充血92.6% (男92.9%、女92.1%)、口唇・口腔所見89.3% (男89.1%、女89.7%)、不定形発疹88.4% (男88.2%、女88.7%)、四肢末端の変化81.9% (男81.5%、女82.5%)、頸部リンパ節腫脹68.6% (男70.4%、女66.2%)であり、性差はみられなかった。年齢別に出現状況を見ると、発熱および眼球結膜充血は年齢差がみられなかった。口唇・口腔所見は2歳にピークをもつゆるい山型であった。不定形発疹は0~1歳にピークをもち、年齢とともにゆるやかに下降していた。四肢末端の変化

は2歳にピークをもつゆるい山型であった。頸部リンパ節腫脹は年齢とともに急激に増加し、10歳以降の高年児は減少していた（表8、図8）。

### 15. 有熱期間

発熱あり患者の有熱期間は6日が最も多く21.3%であり、7日までに解熱した者は70.1%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、7日までに解熱した者は2歳未満の者が74.5%、2歳以上の者は65.9%であり、2歳以上の者の方が熱が持続し、解熱に日数を要していた（表9）。有熱期間をガンマグロブリン投与方式別（400mg/kg × 5日、1000mg/kg × 2日、2000mg/kg × 1日の3群のみ）に比較すると、400mg/kg × 5日群の有熱期間がやや長い傾向を示していた（図9）。

## III. 要約

1. 2年間の報告患者数は16,952人（2001年8,113人、2002年8,839人）であり、1987年以降患者数は着実に増加していた。

2. 最近4年間（1999-2002年）の月別患者数は男女とも、10月が少なく1月が多かった。またすべての月で男が多かった。2002年1月の男の患者数は前年10月の約2.4倍であった。

3. 0-4歳人口10万対罹患率は、2001年138.8（男153.2、女123.7）、2002年151.2（男172.2、女129.3）であった。

4. 性、年齢別罹患率は男女とも9-11か月にピークがみられた。

5. 最近4年間の罹患率の地域差をみると、年によって患者数増の地域が異なっており、4年間に北海道から九州まで幅広い地域で患者数の増加がみられた。全国規模の大流行というより、地域ごとの小規模な流行が全国のいろいろな地域で繰り返されていると推測された。

6. 診断基準への一致度をみると、定型例83.8%、不定型例3.0%、容疑例13.2%であった。

7. 同胞例、再発例、心障害（急性期）例、心障害（後遺症）例の出現頻度は、それぞれ1.3%、3.6%、16.2%、5.0%であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴がある者の割合は0.19%であった。

8. 死亡例は2年間に2人（共に男）報告され、全体の0.01%を占めていた。

9. 心障害（急性期）の内容は、冠動脈の拡大12.97%、瘤1.96%、弁膜病変1.58%、巨大瘤0.27%、狭窄0.05%、心筋梗塞0.02%であり、狭窄、弁膜病変以外は男が高く、年齢別には巨大瘤、拡大、狭窄、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられ、特に巨大瘤は2歳以上が2歳未満にくらべて2倍以上の出現率であった。

10. 心障害（後遺症）の内容は、冠動脈の拡大3.13%、瘤1.36%、巨大瘤0.29%、弁膜病変0.31%、狭窄0.06%、心筋梗塞0.04%であり、心筋梗塞、弁膜病変以外は男が高く、年齢別には瘤、拡大の出現率は2歳未満でやや高率にみられた。急性期と同様に2歳以上の巨大瘤の出現率は2歳未満に比べて2倍以上であった。

11. 患者の初診日は第4病日が最も多く、2歳未満の若年児がやや早く受診していた。

12. 患者の退院時病日は第13-15病日が最も多かった。初診から退院までの日数は9日以内が最も多く、59.0%が15日以内に退院していた。いずれも年齢差はみられなかった。

13. ガンマグロブリンの治療を受けた者は86.0%を占め、1日あたり投与量は1000mg/kgがもっとも多く、1日大量投与が増加していた。総投与量は、2000mg/kgが最も多く68%、次いでその他が16.9%、1000mg/kgが15.1%の順であった。

14. 主要症状の出現割合は、発熱99.3%、眼球結膜充血92.6%、口唇・口腔所見89.3%、不定形発疹88.4%、四肢末端の変化81.9%、頸部リンパ節腫脹68.6%であり、性差はみられなかった。頸部リンパ節腫脹は年齢とともに急激に増加し、10歳以降の高年児は減少していたが、そのほかには顕著な年齢差はみられなかった。

15. 有熱期間は6日が最も多く、70.1%が7日までに解熱していた。年齢別には、2歳以上が有熱期間が長く、ガンマグロブリンの投与方式別には、400mg/kg × 5日群の有熱期間がやや長い傾向を示していた。

## 文献

- 1) 小児MCLS研究班(班長:神前章雄). 小児MCLS全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975;22(6):306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975;5(12):22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976;34(2):275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCLS(川崎病)の実態, -第5回全国調査結果の速報-. 小児科 1979;20(7):755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCLS(川崎病の多発)-第6回全国調査成績の速報-. 小児科 1981;22(1):53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCLS(川崎病)の実態, -第7回全国調査成績の速報-. 小児科 1983;24(1):53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985;26(9):1049-1053.
- 9) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987;28(9):1059-1066.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990;31(5):569-576.
- 11) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992;33(3):309-316.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994;35(1):61-73.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996;37(4):363-383.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998;61(3):406-420.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000;63(1):121-132.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002;65(2):332-342.
- 17) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京:ソフトサイエンス社, 1986;37-51.
- 18) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病(川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京:南江堂, 1988;18-31.
- 19) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作(編). 川崎病の疫学-30年間の総括-. 東京:診断と治療社, 2002.
- 20) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974;54:271-276.
- 21) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987;80:58-62.
- 22) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988;158(6):1296-1301.
- 23) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995;95(4):475-479.
- 24) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med 1995;149:779-783.
- 25) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. J Epidemiol 1996;6(3):148-157.
- 26) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. Pediatrics 102(6). URL:<http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/102/6/e65>.
- 27) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. Pediatrics 2001;107(3). URL:<http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/107/3/e33>.

[表1] 性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0~4歳10万対年間罹患率			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
~1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	-
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	-
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	-
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0(-)
2002	8,839	5,156	3,683	151.2	172.2	129.3	2(0.02)
計	186,069	107,876	78,193	-	-	-	419(0.23)

\* 罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口（5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2002年は2001年の推計人口）を用いた。前回の2000年は1999年の人口を用いたので今回2000年の人口で修正した。

[ 表 2 ] 年齢別、年次別、性別患者数

年 齢	患者数								
	総数			2001年			2002年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総 数	16,952	9,744	7,208	8,113	4,588	3,525	8,839	5,156	3,683
0- 2月	376	226	150	182	101	81	194	125	69
3- 5月	1,256	744	512	670	389	281	586	355	231
6- 8月	1,294	796	498	640	396	244	654	400	254
9-11月	1,434	883	551	683	418	265	751	465	286
12-17月	2,194	1,318	876	1,053	627	426	1,141	691	450
18-23月	1,943	1,109	834	907	487	420	1,036	622	414
2歳	2,860	1,596	1,264	1,385	780	605	1,475	816	659
3歳	2,102	1,181	921	994	540	454	1,108	641	467
4歳	1,519	832	687	681	356	325	838	476	362
5歳	885	467	418	406	214	192	479	253	226
6歳	478	253	225	237	124	113	241	129	112
7歳	267	151	116	117	68	49	150	83	67
8歳	144	75	69	69	39	30	75	36	39
9歳	72	37	35	37	18	19	35	19	16
10歳以上	128	76	52	52	31	21	76	45	31



[表3] 患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0~4歳人口10万対)

患者住所 都道府県	2001年				2002年			
	患者数			罹患率 (男女計)	患者数			罹患率 (男女計)
	総数	男	女		総数	男	女	
総数	8,113	4,588	3,525	138.8	8,839	5,156	3,683	151.2
1:北海道	286	169	117	120.2	393	217	176	165.1
2:青森	77	39	38	116.7	87	52	35	131.8
3:岩手	74	43	31	117.5	73	43	30	115.9
4:宮城	135	81	54	123.9	158	87	71	145.0
5:秋田	58	34	24	123.4	61	39	22	129.8
6:山形	118	58	60	210.7	84	46	38	150.0
7:福島	141	82	59	136.9	137	77	60	133.0
8:茨城	167	94	73	116.8	153	89	64	107.0
9:栃木	125	68	57	131.6	132	72	60	138.9
10:群馬	177	96	81	184.4	171	107	64	178.1
11:埼玉	340	199	141	101.8	376	218	158	112.6
12:千葉	384	200	184	140.7	457	265	192	167.4
13:東京	781	419	362	163.7	880	524	356	184.5
14:神奈川	667	380	287	165.1	721	430	291	178.5
15:新潟	105	71	34	94.6	106	61	45	95.5
16:富山	44	22	22	86.3	34	19	15	66.7
17:石川	77	46	31	135.1	108	64	44	189.5
18:福井	71	39	32	173.2	85	52	33	207.3
19:山梨	38	16	22	88.4	50	28	22	116.3
20:長野	183	105	78	171.0	144	79	65	134.6
21:岐阜	132	74	58	129.4	142	77	65	139.2
22:静岡	276	148	128	153.3	331	191	140	183.9
23:愛知	469	262	207	127.8	510	301	209	139.0
24:三重	146	77	69	164.0	151	99	52	169.7
25:滋賀	80	41	39	112.7	85	48	37	119.7
26:京都	197	114	83	166.9	192	113	79	162.7
27:大阪	523	315	208	109.4	586	352	234	122.6
28:兵庫	411	239	172	152.8	438	240	198	162.8
29:奈良	93	43	50	138.8	104	51	53	155.2
30:和歌山	85	55	30	173.5	84	47	37	171.4
31:鳥取	18	14	4	64.3	23	9	14	82.1
32:島根	29	19	10	87.9	33	19	14	100.0
33:岡山	121	61	60	130.1	129	79	50	138.7
34:広島	247	143	104	181.6	214	124	90	157.4
35:山口	88	45	43	133.3	100	59	41	151.5
36:徳島	42	25	17	120.0	57	37	20	162.9
37:香川	59	34	25	125.5	68	44	24	144.7
38:愛媛	97	57	40	144.8	113	61	52	168.7
39:高知	40	21	19	117.6	45	29	16	132.4
40:福岡	405	240	165	173.8	423	251	172	181.5
41:佐賀	58	34	24	131.8	57	34	23	129.5
42:長崎	75	42	33	104.2	70	35	35	97.2
43:熊本	135	88	47	157.0	162	99	63	188.4
44:大分	79	39	40	143.6	85	53	32	154.5
45:宮崎	58	37	21	103.6	73	46	27	130.4
46:鹿児島	65	41	24	79.3	98	57	41	119.5
47:沖縄	37	19	18	44.6	56	32	24	67.5

\* 都道府県別罹患率は2000年国勢調査人口を用いて計算した。  
 全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2002年は前年の推計人口を使用)。

[表4] 種類別、性別、年齢別心障害の出現率

		総数	巨大瘤	瘤	拡大	狭窄	心筋梗塞	弁膜病変	
急性期	総数	16,952 (100.0)	46 (0.27)	333 (1.96)	2,199 (12.97)	9 (0.05)	4 (0.02)	268 (1.58)	
	性別	男	9,744 (100.0)	37 (0.38)	225 (2.31)	1,468 (15.07)	4 (0.04)	4 (0.04)	146 (1.50)
		女	7,208 (100.0)	9 (0.12)	108 (1.50)	731 (10.14)	5 (0.07)	0 -	122 (1.69)
	年齢別	2歳未満	8,497 (100.0)	14 (0.16)	194 (2.28)	1,095 (12.89)	3 (0.04)	1 (0.01)	117 (1.38)
		2歳以上	8,455 (100.0)	32 (0.38)	139 (1.64)	1,104 (13.06)	6 (0.07)	3 (0.04)	151 (1.79)
後遺症	総数	16,952 (100.0)	49 (0.29)	231 (1.36)	531 (3.13)	11 (0.06)	7 (0.04)	53 (0.31)	
	性別	男	9,744 (100.0)	40 (0.41)	157 (1.61)	362 (3.72)	7 (0.07)	4 (0.04)	26 (0.27)
		女	7,208 (100.0)	9 (0.12)	74 (1.03)	169 (2.34)	4 (0.06)	3 (0.04)	27 (0.37)
	年齢別	2歳未満	8,497 (100.0)	14 (0.16)	128 (1.51)	267 (3.14)	5 (0.06)	2 (0.02)	24 (0.28)
		2歳以上	8,455 (100.0)	35 (0.41)	103 (1.22)	264 (3.12)	6 (0.07)	5 (0.06)	29 (0.34)

[表5] 年齢別、初診時およびガンマグロブリン投与開始時病日の分布

		総数(%)	2歳未満(%)	2歳以上(%)
*初診時	総数	16,941 (100.0)	8,491 (100.0)	8,450 (100.0)
	第1病日	872 (5.1)	551 (6.5)	321 (3.8)
	第2病日	2,352 (13.9)	1,420 (16.7)	932 (11.0)
	第3病日	3,568 (21.1)	1,909 (22.5)	1,659 (19.6)
	第4病日	3,940 (23.3)	1,989 (23.4)	1,951 (23.1)
	第5病日	3,123 (18.4)	1,408 (16.6)	1,715 (20.3)
	第6病日	1,607 (9.5)	652 (7.7)	955 (11.3)
	第7病日	722 (4.3)	259 (3.1)	463 (5.5)
	第8病日	342 (2.0)	121 (1.4)	221 (2.6)
	第9病日	133 (0.8)	54 (0.6)	79 (0.9)
第10病日以上	282 (1.7)	128 (1.5)	154 (1.8)	
**ガンマグロブリン開始時	総数	14,059 (100.0)	7,041 (100.0)	7,018 (100.0)
	第1病日	16 (0.1)	11 (0.2)	5 (0.1)
	第2病日	173 (1.2)	98 (1.4)	75 (1.1)
	第3病日	1,014 (7.2)	634 (9.0)	380 (5.4)
	第4病日	2,713 (19.3)	1,583 (22.5)	1,130 (16.1)
	第5病日	4,899 (34.8)	2,483 (35.3)	2,416 (34.4)
	第6病日	2,768 (19.7)	1,197 (17.0)	1,571 (22.4)
	第7病日	1,352 (9.6)	546 (7.8)	806 (11.5)
	第8病日	554 (3.9)	214 (3.0)	340 (4.8)
	第9病日	237 (1.7)	99 (1.4)	138 (2.0)
第10病日以上	333 (2.4)	176 (2.5)	157 (2.2)	

\*初診時病日不明11人を除く16941人を集計。

\*\*ガンマグロブリン使用例14575人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明516人を除く14059人を集計。

[表6] 年齢別、退院時病日・初診から退院までの日数の分布

		総数(%)	2歳未満(%)	2歳以上(%)
*退院時病日	総数	16,597 (100.0)	8,316 (100.0)	8,281 (100.0)
	第1～9病日	904 (5.4)	527 (6.3)	377 (4.6)
	第10～12病日	2,180 (13.1)	1,152 (13.9)	1,028 (12.4)
	第13～15病日	3,343 (20.1)	1,692 (20.3)	1,651 (19.9)
	第16～18病日	3,181 (19.2)	1,532 (18.4)	1,649 (19.9)
	第19～21病日	2,506 (15.1)	1,168 (14.0)	1,338 (16.2)
	第22～24病日	1,439 (8.7)	740 (8.9)	699 (8.4)
	第25～27病日	974 (5.9)	481 (5.8)	493 (6.0)
	第28～30病日	659 (4.0)	335 (4.0)	324 (3.9)
	第31病日以上	1,411 (8.5)	689 (8.3)	722 (8.7)
**初診から退院までの日数	総数	16,596 (100.0)	8,315 (100.0)	8,281 (100.0)
	1～9日	3,367 (20.3)	1,717 (20.6)	1,650 (19.9)
	10～12日	3,154 (19.0)	1,531 (18.4)	1,623 (19.6)
	13～15日	3,271 (19.7)	1,646 (19.8)	1,625 (19.6)
	16～18日	2,305 (13.9)	1,113 (13.4)	1,192 (14.4)
	19～21日	1,502 (9.1)	781 (9.4)	721 (8.7)
	22～24日	965 (5.8)	486 (5.8)	479 (5.8)
	25～27日	631 (3.8)	315 (3.8)	316 (3.8)
	28～30日	481 (2.9)	249 (3.0)	232 (2.8)
31日以上	920 (5.5)	477 (5.7)	443 (5.3)	

\*退院時病日不明256人および入院なし99人を除く16597人を集計。

\*\*初診時病日あるいは退院時病日不明257人および入院なし99人を除く16596人を集計。

[表7] ガンマグロブリン1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数(%)	1日	2日	3日	4日	5日	6日以上
総数		14,285 (100.0)	5,322	4,346	533	429	3,601	54
-299mg/kg		380 (2.7)	10	24	41	30	267	8
-499mg/kg		3,813 (26.7)	22	58	288	176	3,231	38
-699mg/kg		465 (3.3)	18	57	95	199	92	4
-899mg/kg		116 (0.8)	19	53	29	8	5	2
-1099mg/kg		6,294 (44.1)	2,090	4,104	76	16	6	2
-1299mg/kg		106 (0.7)	73	31	2	0	0	0
-1499mg/kg		17 (0.1)	17	0	0	0	0	0
-1699mg/kg		19 (0.1)	18	1	0	0	0	0
-1899mg/kg		60 (0.4)	59	1	0	0	0	0
-2099mg/kg		2,988 (20.9)	2,969	17	2	0	0	0
2100mg/kg+		27 (0.2)	27	0	0	0	0	0
再掲	200mg/kg	192 (1.3)	2	11	23	10	142	4
	400mg/kg	3,107 (21.8)	19	42	211	93	2,719	23
	1000mg/kg	6,012 (42.1)	1,955	3,959	75	15	6	2
	2000mg/kg	2,895 (20.3)	2,877	16	2	0	0	0
	その他	2,079 (14.6)	469	318	222	311	734	25

\*ガンマグロブリン使用例14575人のうち1日投与量、投与日数不明290人を除く14285人を集計。

[ 表 8 ] 性別、年齢別主要症状の出現割合

		総数	発熱	眼球結膜 充血	口唇・口腔 所見	不定形発疹	四肢末端の 変化	頸部リンパ節 腫脹
総数		16,952 (100.0)	16,829 (99.3)	15,690 (92.6)	15,143 (89.3)	14,989 (88.4)	13,888 (81.9)	11,633 (68.6)
性別	男	9,744 (100.0)	9,678 (99.3)	9,055 (92.9)	8,681 (89.1)	8,593 (88.2)	7,939 (81.5)	6,858 (70.4)
	女	7,208 (100.0)	7,151 (99.2)	6,635 (92.1)	6,462 (89.7)	6,396 (88.7)	5,949 (82.5)	4,775 (66.2)
年齢別	0-5月	1,632 (100.0)	1,617 (99.1)	1,515 (92.8)	1,420 (87.0)	1,485 (91.0)	1,262 (77.3)	763 (46.8)
	6-11月	2,728 (100.0)	2,704 (99.1)	2,523 (92.5)	2,380 (87.2)	2,500 (91.6)	2,216 (81.2)	1,445 (53.0)
	1歳	4,137 (100.0)	4,104 (99.2)	3,780 (91.4)	3,686 (89.1)	3,800 (91.9)	3,471 (83.9)	2,556 (61.8)
	2歳	2,860 (100.0)	2,846 (99.5)	2,683 (93.8)	2,620 (91.6)	2,576 (90.1)	2,427 (84.9)	2,094 (73.2)
	3歳	2,102 (100.0)	2,088 (99.3)	1,956 (93.1)	1,908 (90.8)	1,814 (86.3)	1,744 (83.0)	1,713 (81.5)
	4歳	1,519 (100.0)	1,505 (99.1)	1,412 (93.0)	1,378 (90.7)	1,250 (82.3)	1,265 (83.3)	1,332 (87.7)
	5歳	885 (100.0)	880 (99.4)	807 (91.2)	790 (89.3)	705 (79.7)	686 (77.5)	785 (88.7)
	6歳	478 (100.0)	477 (99.8)	445 (93.1)	430 (90.0)	370 (77.4)	349 (73.0)	420 (87.9)
	7歳	267 (100.0)	266 (99.6)	250 (93.6)	240 (89.9)	211 (79.0)	207 (77.5)	237 (88.8)
	8歳	144 (100.0)	143 (99.3)	139 (96.5)	128 (88.9)	116 (80.6)	116 (80.6)	123 (85.4)
	9歳	72 (100.0)	72 (100.0)	65 (90.3)	62 (86.1)	58 (80.6)	53 (73.6)	65 (90.3)
	10歳以上	128 (100.0)	127 (99.2)	115 (89.8)	101 (78.9)	104 (81.3)	92 (71.9)	100 (78.1)

[ 表 9 ] 年齢別、有熱期間の分布

	総数(%)	2歳未満(%)	2歳以上(%)
総数	16,177 (100.0)	8,105 (100.0)	8,072 (100.0)
1~4日	1,868 (11.5)	1,184 (14.6)	684 (8.5)
5日	3,296 (20.4)	1,916 (23.6)	1,380 (17.1)
6日	3,452 (21.3)	1,748 (21.6)	1,704 (21.1)
7日	2,742 (16.9)	1,189 (14.7)	1,553 (19.2)
8日	1,835 (11.3)	806 (9.9)	1,029 (12.7)
9日	1,132 (7.0)	459 (5.7)	673 (8.3)
10日	726 (4.5)	281 (3.5)	445 (5.5)
11日	327 (2.0)	139 (1.7)	188 (2.3)
12日	238 (1.5)	104 (1.3)	134 (1.7)
13日	158 (1.0)	77 (1.0)	81 (1.0)
14~20日	332 (2.1)	159 (2.0)	173 (2.1)
21日以上	71 (0.4)	43 (0.5)	28 (0.3)

\* 発熱なし、有熱期間不明775人を除く16177人を集計。

図1 年次別、性別患者数

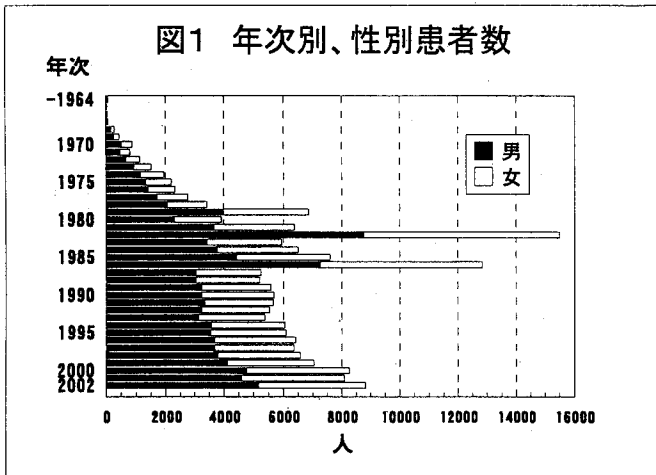


図2 年次別、性別罹患率

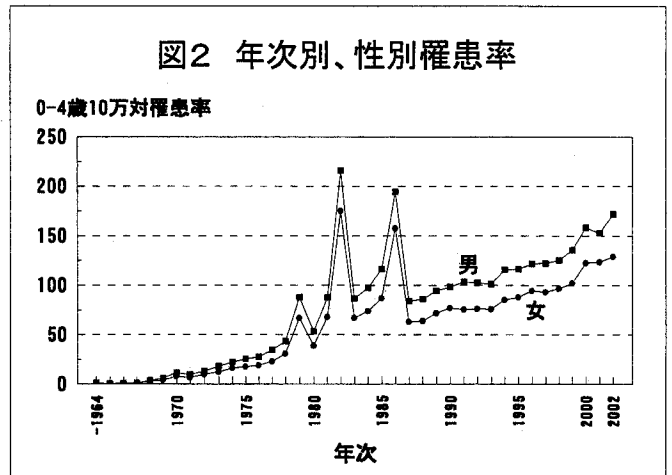


図3 月別、性別患者数

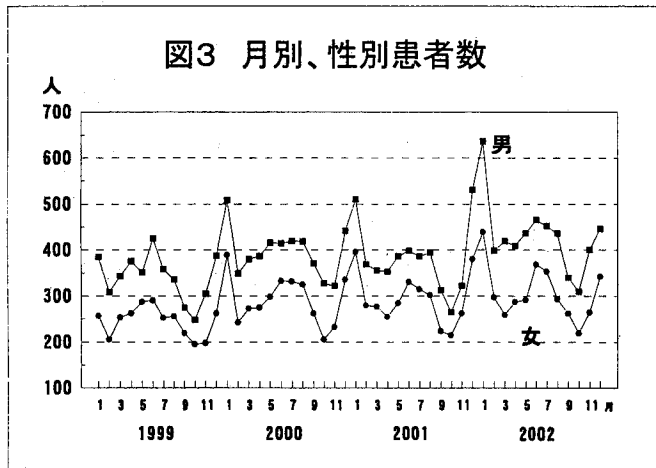


図4 性別、年齢別罹患率

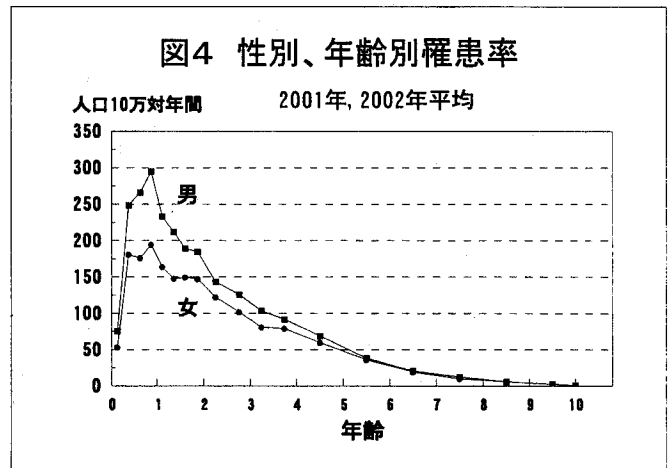


図5-a 都道府県別罹患率  
1999-2000

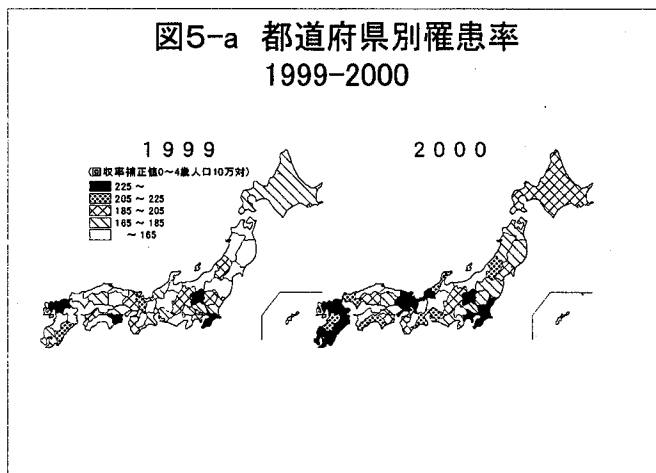


図5-b 都道府県別罹患率  
2001-2002

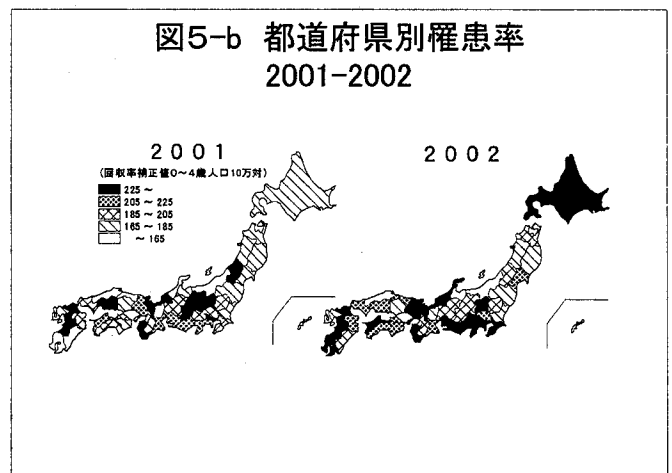


図6 性別、年齢別心障害の出現率 %

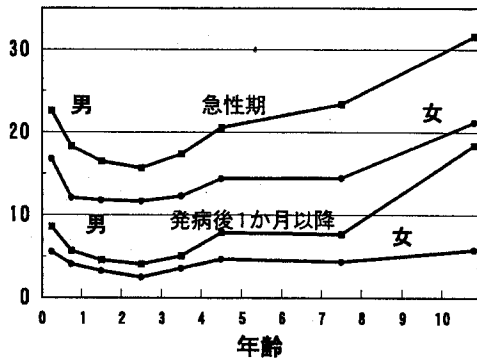
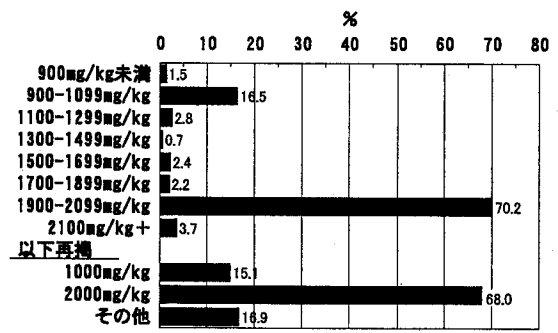


図7 ガンマグロブリン使用総量の分布



\*ガンマグロブリン使用例14,575人のうち1日投与量、投与日数不明290人を除く14,285人を集計

図8 年齢別主要症状の出現割合 %

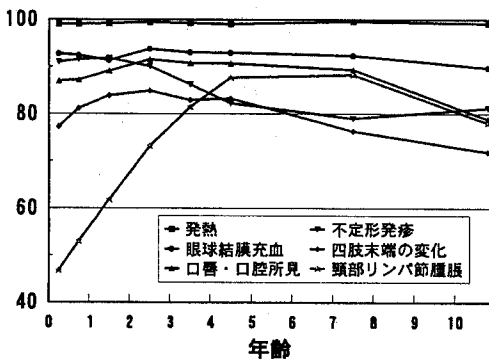
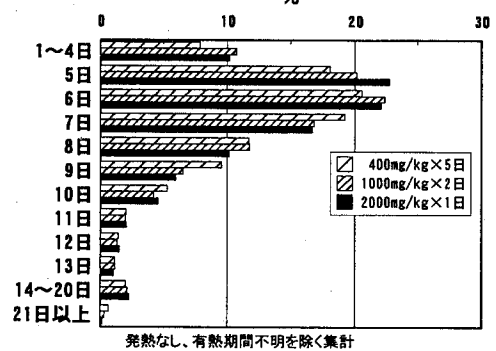


図9 ガンマグロブリン投与方式別、有熱期間の分布



発熱なし、有熱期間不明を除く集計

第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究班として深く感謝します。  
今回の調査にご協力いただいた医療機関名を付記します。

第17回全国調査協力施設名 (都道府県別、順不同)

1. 北海道

国立療養所西札幌病院  
 国立札幌病院  
 国立療養所道北病院  
 北大医学部附属病院  
 札幌鉄道病院  
 NTT東日本札幌病院  
 札幌医科大学総合病院  
 道立札幌肢体不自由児総合療育センター  
 道立旭川肢体不自由児総合療育センター  
 道立紋別病院  
 道立羽幌病院  
 市立札幌病院  
 市立小樽病院  
 市立函館病院  
 市立江別総合病院  
 市立千歳市民病院  
 市立三笠総合病院  
 国民健康保険町立栗沢病院  
 岩見沢市立総合病院  
 市立美瑛病院  
 歌志内市立病院  
 滝川市立病院  
 市立赤平総合病院  
 市立虻田病院  
 深川市立総合病院  
 市立旭川病院  
 美瑛町立病院  
 名寄市立総合病院  
 市立室蘭総合病院  
 苫小牧市立総合病院  
 白老町立国民健康保険病院  
 町立芽室病院  
 町立中標津病院  
 町立別海病院  
 市立稚内病院  
 伊達赤十字病院  
 浦河赤十字病院  
 清水赤十字病院  
 総合病院北見赤十字病院  
 社会事業協会・函館病院  
 社会事業協会・余市病院  
 厚生連総合病院札幌厚生病院  
 厚生連沼田厚生病院  
 厚生連総合病院旭川厚生病院  
 厚生連美深厚生病院  
 厚生連総合病院遠軽厚生病院  
 北海道社会保険病院  
 (医療)太田病院  
 夕張市立総合病院  
 新日鉄室蘭総合病院  
 日鋼記念病院  
 王子総合病院  
 函館五稜郭病院  
 共愛会病院  
 天使病院  
 大原病院  
 札幌社会保険総合病院  
 五輪橋産科婦人科小児科病院  
 育愛会札幌東豊病院  
 慶愛病院  
 ふらの西病院  
 道東勤医協釧路協立病院  
 幸北病院  
 北楡会札幌北楡病院  
 国立療養所帯広病院  
 自衛隊札幌病院  
 木古内町国民健康保険病院  
 国家公務員共済組合連合会幌南病院  
 北海道立江差病院  
 今金町国民健康保険病院  
 本別町国民健康保険病院  
 旭川医科大学医学部附属病院  
 (財)小児愛育協会附属愛育病院  
 北海道療育園  
 (医社)友愛会恵愛病院  
 道立小児総合保健センター  
 清和会 南札幌病院  
 美唄労災病院

道北勤医協 一条クリニック  
 熊石町国民健康保険病院  
 町立厚岸病院  
 恵庭第一病院  
 市立士別総合病院  
 八雲総合病院  
 勤医協札幌北區病院  
 医療法人研成会札幌鈴木病院  
 札幌マタニティウィメンズ ホスピタル  
 医療法人徳洲会札幌徳洲会病院  
 手稲溪仁会病院  
 (医療法人)道南勤医協函館稜北病院  
 (医療法人)北展会恵み野病院  
 豊岡中央病院  
 釧路市医師会病院  
 シロアムクリニック  
 斜里町国民健康保険病院

2. 青森県

弘前大学医学部附属病院  
 青森県立中央病院  
 青森市民病院  
 八戸市立市民病院  
 黒石市国民健康保険石病医院  
 国民健康保険鶴田町立中央病院  
 国民健康保険五所川原市立西北中央病院  
 公立金木病院  
 鯉ヶ沢町立中央病院  
 公立野辺地病院  
 公立七戸病院  
 むつ総合病院  
 鳴海病院  
 町立大鰐病院  
 青森県立はまなす学園  
 市立三沢病院  
 (医療)誠仁会 尾野病院  
 弘前市立病院  
 弘前中央病院  
 (財)双仁会 厚生病院  
 青森労災病院  
 国立療養所青森病院  
 美保野病院  
 医療法人赤心会十和田東病院

3. 岩手県

岩手県立釜石病院  
 岩手県立宮古病院  
 岩手県立花巻厚生病院  
 岩手県立胆沢病院  
 岩手県立磐井病院  
 岩手県立高田病院  
 岩手県立大船渡病院  
 岩手県立久慈病院  
 岩手県立福岡病院  
 岩手県立軽米病院  
 盛岡市立病院  
 釜石市民病院  
 盛岡赤十字病院  
 北上済生会病院  
 岩手医科大学附属病院  
 もりおかこども病院  
 国立療養所盛岡病院  
 国療釜石病院  
 岩手県立山田病院  
 岩手県立北上病院  
 国療岩手病院  
 川久保病院  
 岩手県立遠野病院  
 東八幡平病院

4. 宮城県

国療宮城病院  
 東北大学医学部附属病院  
 J R仙台病院  
 仙台運信病院  
 仙台市立病院  
 塩釜市立病院  
 塩川市立病院  
 公立気仙沼総合病院

みやぎ県南中核病院  
 丸森町国民健康保険丸森病院  
 仙台赤十字病院  
 石巻赤十字病院  
 東北厚生年金病院  
 東北公済病院  
 (財)宮城厚生協会坂総合病院  
 (医療)本多友愛会仙南病院  
 医療法人浄仁会大泉記念病院  
 南東北病院  
 東北大学加齢医学研究所附属病院発達病態  
 研究分野(小児腫瘍科)  
 女川町立病院  
 松田会松田病院  
 仙台社保病院  
 光ヶ丘スペルマン病院  
 東北労災病院  
 自衛隊仙台病院  
 宮城利根救済会病院  
 仙台市加齢センター(仙台オープン病院)  
 (財)宮城厚生協会 長町病院  
 中嶋病院  
 財団法人宮城厚生協会古川民主病院  
 公立米谷病院

5. 秋田県

大館市立総合病院  
 比内町立扇田病院  
 男鹿みなと市民病院  
 秋田市立秋田総合病院  
 公立角館総合病院  
 公立横手病院  
 秋田赤十字病院  
 湖東総合病院  
 秋田総合総合病院  
 平鹿総合病院  
 (医療)愛生会 石田病院  
 中通総合病院  
 外旭川病院  
 医療法人青嵐会本荘第一病院  
 佐藤病院  
 秋田社会保険病院  
 大曲中通病院  
 秋田大学医学部附属病院  
 秋田県太平療育園  
 北秋中央病院  
 藤原記念病院

6. 山形県

山形県立中央病院  
 山形県立新庄病院  
 天童市立天童病院  
 山形市立病院済生館  
 市立酒田病院  
 鶴岡市立荘内病院  
 公立高島病院  
 公立置賜長井病院  
 米沢市立病院  
 済生会 山形済生病院  
 寒河江市立病院  
 県立日本海病院  
 公立置賜総合病院  
 山形県立河北病院  
 国立療養所米沢病院  
 山形大学医学部附属病院  
 鶴岡協立病院  
 国療山形病院  
 医療法人産婦人科小児科三井病院

7. 福島県

国立郡山病院  
 福島県立医科大学附属病院  
 福島県立三春病院  
 福島県立会津総合病院  
 公立藤田総合病院  
 公立岩瀬病院  
 公立小野町地方総合病院  
 いわき市立総合磐城共立病院  
 いわき市立常磐病院

国保原町市立病院  
総合病院福島赤十字病院  
済生会 福島総合病院  
白河厚生総合病院  
塙厚生病院  
坂下厚生総合病院  
(財)大原総合病院  
(財)太田総合病院附属太田記念病院  
(財)太田総合病院附属太田熱海病院  
(財)寿泉堂総合病院  
(財)竹田総合病院  
(財)竹林病院  
福島整肢療護園  
(財)大原総合病院附属大原医療センター  
(財)太田総合病院附属太田西ノ内病院  
総合会津中央病院  
新生会内科小児科佐藤病院  
小高町立病院  
県立南会津病院  
国療福島病院  
福島県厚生農協組合連双葉厚生病院  
(財)星総合病院  
(財)松川総合病院  
(医療)保科病院  
(社医)呉羽総合病院  
医療法人慈久会 谷病院  
済生会川俣病院  
国立療養所翠ヶ丘病院  
医療生協わたり病院  
医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院  
福島県心身障害児総合療育センター  
公立相馬総合病院

### 8. 茨城県

国立水戸病院  
国立霞ヶ浦病院  
茨城県立こども福祉医療センター  
水戸済生会総合病院  
社会福祉法人恩賜財団済生会波崎済生病院  
総合病院水戸協同病院  
国公共済連水府病院  
株式会社日立製作所多賀総合病院  
城南病院  
石岡第一病院  
つくばセントラル病院  
みつなみ会三和記念病院  
県立こども病院  
ひたちなか母子の病院  
双愛会つくば双愛病院  
威恵会三岳荘小松崎病院  
なめがた地域総合病院  
県西総合病院  
(医療)愛宣会 秦病院  
株式会社日立製作所日立総合病院  
筑波大学附属病院  
茨城県立コロナあすなろ病院  
(医療)住吉クリニック病院  
(医療)愛正会 田尻ヶ丘病院  
惇慈会日立港病院  
(医療)常仁会牛久愛和総合病院  
(財)筑波学園病院  
友愛記念病院  
北茨城市立総合病院  
総合病院取手協同病院  
高萩協同病院  
医療法人清真会丹野病院  
石岡市医師会病院  
財団法人筑波メディカルセンター病院  
医療法人筑波記念病院  
きぬ医師会病院  
慶友会守谷慶友病院  
茨城西南医療センター病院  
国立療養所晴嵐荘病院

### 9. 栃木県

国立栃木病院  
小山市民病院  
芳賀赤十字病院  
太田原赤十字病院  
足利赤十字病院  
上都賀総合病院  
石橋総合病院  
宇都宮社会保険病院  
日光市民病院

那須野が原青間病院  
国療東宇都宮病院  
福田記念病院  
真岡病院  
光南病院  
医療法人社団友志会 野木病院  
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院  
あしかがの森 足利病院  
自治医科大学附属病院  
獨協医科大学病院小児科(内分泌・血液)  
(財団医療法人十全会)上野内科・小児科  
黒須病院  
今井病院  
菅又病院  
(医療)慈啓会 白濁病院  
とちぎリハビリテーションセンター  
西方病院  
佐野医師会病院

### 10. 群馬県

国立高崎病院  
国立沼田病院  
渋川総合病院  
群馬大学医学部附属病院  
群馬県立がんセンター  
桐生厚生総合病院  
碓氷病院  
伊勢崎市民病院  
館林厚生病院  
前橋赤十字病院  
原町赤十字病院  
公立富岡総合病院  
社保群馬中央総合病院  
富士重工工業健康保険組合総合太田病院  
利根中央病院  
本島総合病院  
県立小児医療センター  
伊勢崎佐佐木医師会病院  
群馬県済生会 前橋病院  
前橋協立病院  
重症心身障害児施設ばんなさわらび療育園  
都立成東児童保健院  
国療西群馬病院  
群馬整肢療護園  
高崎中央病院  
小児科佐藤病院  
太田福島総合病院  
下仁田厚生病院

### 11. 埼玉県

国立西埼玉中央病院  
国立埼玉病院  
蕨市立病院  
春日市立病院  
草加市立病院  
さいたま赤十字病院  
総合病院小川赤十字病院  
埼玉県済生会川口総合病院  
埼玉厚生農協連熊谷総合病院  
社保大宮総合病院  
川口工業総合病院  
(医社)東光会 戸田中央総合病院  
(医療)ヘプロン会大宮中央総合病院  
愛友会 上尾中央総合病院  
愛生会病院  
クリニカル病院  
埼玉県済生会栗橋病院  
西武産婦人科小児科病院  
県立小児医療センター  
へリオス会病院  
秩父市立病院  
本庄総合病院  
熊谷生協病院  
三愛会総合病院  
飯能中央病院  
(医療)本庄 福島病院  
さいたま市立病院  
国療東埼玉病院  
越谷市立病院  
朝霞中央総合病院  
(医社)協友会八潮中央総合病院  
防衛医科大学校病院  
(医療)聖仁会 西部総合病院  
(医社)東光会 戸田中央産院

(医療)あかつき会はとがや病院  
埼玉協同病院  
至誠堂富田病院  
(医社)青葉会 新座病院  
(医療)関越病院  
(医療)誠壽会 上福岡総合病院  
(医療)仁仁会 春日部厚生病院  
(医療)仁愛会 東埼玉総合病院  
秋谷病院  
医療法人社団協友会東川口病院  
獨協医科大学越谷病院  
東鷲宮病院  
医療法人一心会伊奈病院  
医療法人社団彌ノ内病院  
東松山市立市民病院  
医療法人啓仁会川島病院  
医療法人上武病院  
医療法人社団哺育会白岡中央病院  
越谷北病院  
医療法人明晴会西武入間病院

### 12. 千葉県

国立精神・神経センター国府台病院  
国療下志津病院  
千葉大学医学部附属病院  
千葉県立佐原病院  
千葉県立東金病院  
千葉県循環器病センター  
千葉市立病院  
浦安市川市市民病院  
国保松戸市立病院  
銚子市立総合病院  
総合病院国保旭中央病院  
公立長生病院  
成田赤十字病院  
千葉県済生会習志野病院  
川崎製鉄健保組合千葉病院  
東京歯科大学市川総合病院  
みつわ台総合病院  
千葉西病院  
岬病院  
都立成東児童保健院  
平和台病院  
加藤病院  
千葉県こども病院  
東邦大学医学部附属佐倉病院  
野田病院  
日本医科大学附属千葉北総病院  
国保多古中央病院  
蛍水会名戸ヶ谷病院  
(医療)聖峰会 岡田病院  
国療千葉東病院  
千葉社会保険病院  
(医社)千葉健生病院  
(医療)鳳生会 藤立病院  
医療法人社団聖仁会我孫子聖仁会病院  
田中農協病院  
千葉県千葉リハビリテーションセンター  
(医社)友康会 行徳中央病院  
(医財)明理会新松戸中央総合病院  
(医社)東光会 北総白井病院  
(医社)上総会 山之内病院  
(医療)公明会 塩田病院  
千葉労災病院  
(医療)鎗田病院  
(医法)成春会北習志野花輪病院  
(医社)協友会 船橋総合病院  
(医社)協友会 柏厚生総合病院  
東葛病院  
千葉市立海浜病院  
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院  
新八柱台病院  
船橋市立医療センター  
(医社)愛友会 流山病院  
医療法人社団保健会谷津保健病院  
医療法人三矢会八街総合病院  
帝京大学医学部附属市原病院  
医療法人新都市医療研究会君津会々々堂  
君津病院  
東京慈恵会医科大学附属柏病院

### 13. 東京都

国立がんセンター中央病院  
国立国際医療センター



国立病院東京医療センター小児科  
東京医科歯科大学病院  
東京専売病院  
NTT 東日本関東病院  
J R 東京総合病院  
東京通信病院  
自衛隊中央病院  
大蔵省印刷局東京病院  
都立駒込病院  
都立墨東病院  
都立広尾病院  
東京都立大塚病院  
都立豊島病院  
都立清瀬小児病院  
青梅市立総合病院  
日野市立病院  
稲城市立病院  
公立昭和病院  
総合病院大森赤十字病院  
日本赤十字社医療センター  
武蔵野赤十字病院  
東京都済生会中央病院  
社保中央総合病院  
社保蒲田総合病院  
東京厚生年金病院  
せんぽ東京高輪病院  
虎の門病院  
公立学校共済組合 関東中央病院  
東京警察病院  
聖路加国際病院  
北里研究所病院  
永寿総合病院  
(財)日産厚生会 玉川病院  
(社)至誠会 第二病院  
緑成会病院  
(医社)江東病院  
(医財)仁医会 牧田総合病院  
田園調布中央病院  
(医財)河北総合病院  
(医社)関川病院  
(医)西新井病院  
(医社)大坪会 北多摩病院  
杏林大学病院  
日本大学駿河台病院  
東京慈恵会医科大学病院  
慶応義塾大学病院  
日本医科大学病院  
東邦大学 大橋病院  
東邦大学 大森病院  
東京女子医科大学 第2病院  
日本大学 附属板橋病院  
慈恵医科大学 青戸病院  
慈恵医科大学 附属病院第3病院  
東京電力病院  
小平記念東京日立病院  
三井記念病院  
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院  
(社福)聖母会 聖母病院  
(社福)賛育会 賛育会病院  
同愛記念病院  
久我山病院  
東京医療生協組合 中野総合病院  
立正佼成会 附属佼成病院  
東京衛生病院  
(社福)勝楽堂病院  
(社福)仁生社 江戸川病院  
(社福)慈生会 慈生会病院  
(社福)東京都同胞援護会昭島病院  
(社福)鶴風会東京小児療育病院  
(医社)時正会 佐々総合病院  
医療法人社団赤仁会市川第二病院  
(財)東京都保健医療公社東部地域病院  
医療法人社団日心会総合病院一心病院  
りんご会東十条病院  
まつしま産婦人科小児科病院  
財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域  
病院  
三医会鶴川厚生病院  
吉川内科小児科病院  
都立東大和療育センター  
産科婦人科久保田病院  
東京大学医学研究所附属病院  
都立府中療育センター  
東京都職員共済組合 青山病院

(医財)健康文化会 小豆沢病院  
緑風荘病院  
世田谷下田総合病院  
敬愛病院  
森本病院  
公立阿伎留病院  
都立府中病院  
帝京大学医学部附属病院  
日本医科大学 多摩永山病院  
博慈会記念総合病院  
秋津療育園  
都立八王子小児病院  
東京健生病院  
(医社)板橋中央総合病院  
(医社)明芳会高島平中央総合病院  
(医社)水野病院  
東京都立神経病院  
国立精神神経センター武蔵病院  
医療法人社団健生会立川相互病院  
高澤病院  
医療法人社団誠和会白鬢橋病院  
王子生協病院  
医療法人社団地原会赤羽病院  
心身障害児総合医療療育センター  
日本大学医学部附属練馬光が丘病院

#### 14. 神奈川県

国立病院横浜医療センター  
国立横須賀病院  
国立相模原病院  
厚木市立病院  
神奈川県立足柄上病院  
横浜市立港湾病院  
横浜市立大学医学部附属市民総合医療セ  
ンター  
川崎市立川崎病院  
平塚市民病院  
茅ヶ崎市立病院  
三浦市立病院  
大和市立病院  
横浜赤十字病院  
津久井赤十字病院  
(財)済生会 神奈川県病院  
相模原協同病院  
社保横浜中央病院  
川崎社会保険病院  
横浜船員保険病院  
住友重機械健康組合 浦賀病院  
国公共済連横浜南共済病院  
国公共済連総合病院横浜共済病院  
国公共済連 稲田登戸病院  
国公共済連総合病院平塚共済病院  
(医療)柏堤会 戸塚共立第1病院  
京浜総合病院  
(医療)愛仁会 太田総合病院  
(医社)亮正会総合高津中央病院  
日本医科大学 附属第二病院  
日立製作所 戸塚総合病院  
国際親善総合病院  
(社福)日本医療伝道会総合病院衣笠病院  
(社福)湘南福祉協会総合病院湘南病院  
総合相模更生病院  
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
医療法人産育会堀病院  
西横浜国際総合病院  
医療法人大樹会佐藤病院  
湘南鎌倉総合病院  
新横浜母と子の病院  
横浜労災病院  
横浜市立大学医学部附属病院  
三喜会横浜新緑総合病院  
自衛隊横須賀病院  
東日本循環器病院  
(医療)柏堤会 戸塚共立第2病院  
関東労災病院  
横浜市小児アレルギーセンター  
総合病院秦野赤十字病院  
伊勢原協同病院  
(社団)日本厚生団長津田厚生総合病院  
総合病院横浜通信病院  
藤沢市民病院  
(財)横浜勤労者福祉協会汐田総合病院  
小澤総合病院  
昭和大学 藤が丘病院

聖マリアンナ医科大学病院  
北里大学病院  
帝京大学 溝口病院  
川崎医療生協 川崎協同病院  
相模台病院  
神奈川県リハビリテーション病院  
済生会 横浜市南部病院  
(医社)明芳会横浜旭中央総合病院  
神奈川県衛生看護専門学校附属病院  
(医社)青葉会 牧野記念病院  
(医療)誠医会 宮川病院  
横須賀市立市民病院  
相模原中央病院  
南大和病院  
(医療)徳洲会 大和徳洲会病院  
(医療)徳洲会茅ヶ崎徳洲会総合病院  
(医社)愛友会 金沢文庫病院  
東海大学医学部附属大磯病院  
(医社)仁愛会 海老名総合病院  
聖マリアンナ医科大学横浜西部病院  
医療法人社団緑成会横浜総合病院  
医療法人財団石心会川崎幸クリニック  
新中川病院  
厚木佐藤病院

#### 15. 新潟県

新潟大学医学部附属病院  
新潟県立ガンセンター新潟病院  
新潟県立新発田病院  
新潟県立吉田病院  
新潟県立十日町病院  
新潟県立中央病院  
水原郷病院  
町立津南病院  
済生会 三条病院  
三条総合病院  
長岡中央総合病院  
栃尾郷病院  
魚沼総合病院  
上越総合病院  
頸南病院  
糸魚川総合病院  
佐渡総合病院  
小千谷総合病院  
上村病院  
(医療)立川総合病院  
新潟県厚生農業協同組合連合会中条病院  
済生会新潟第二病院  
県立妙高病院  
共生会中条中央病院  
徳洲会山北徳洲会病院  
亀田第一病院  
聖園病院  
新潟南病院  
木戸病院  
新潟こばり病院  
南部郷総合病院  
両津市民病院  
新潟労災病院  
国療養所犀潟病院  
新潟県はまぐみ小児療育センター  
国民健康保険町立ゆきくに大和総合病院  
新潟県立坂町病院  
国立療養所西新潟中央病院  
白根健生病院  
長岡療育園  
厚生連村上総合病院

#### 16. 富山県

かみいち総合病院  
新湊市民病院  
市立砺波総合病院  
富山赤十字病院  
富山県済生会 富山病院  
富山県済生会 高岡病院  
厚生連滑川病院  
社会保険 高岡病院  
公立学校共済組合北陸中央病院  
公立井波総合病院  
国療富山病院  
富山医科薬科大学附属病院  
医療法人社団翠十字会誠友病院  
八尾総合病院  
富山労災病院

17. 石川県

国立金沢病院
国立山中病院
金沢大学医学部附属病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
公立能登総合病院
公立加賀中央病院
市立輪島病院
金沢赤十字病院
済生会金沢病院
公立松任石川中央病院
公立つるぎ病院
金沢社会保険病院
金沢聖憲総合病院
松田小児科医院
蓮井小児科医院
恵寿総合病院
恵愛病院
国療医王病院
国保町立根上総合病院
珠洲市総合病院
城北病院
金沢医科大学病院
石川整肢学園
金沢西病院
国療七尾病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
医療法人社団和泉仁辰口芳珠記念病院
国民健康保険志雄病院

18. 福井県

公立丹南病院
福井県立病院
町立三国病院
市立敦賀病院
公立小浜病院
福井赤十字病院
福井県済生会病院
(医療)安川病院
国立療養所北濃病院
福井県小児療育センター
笠原病院
(医療)福井愛育病院
福井医科大学病院
社保高浜病院
産婦人科・小児科玉井病院

19. 山梨県

山梨県立中央病院
韭崎市立病院
富士吉田市立病院
巨摩共立病院
桃花会一宮温泉病院
山梨赤十字病院
国療西甲府病院
甲府共立病院
上野原町立病院
山梨県立あけぼの医療福祉センター
市川大門町立病院

20. 長野県

国立長野病院
国立松本病院
国療東長野病院
信州大学病院
長野県立阿南病院
長野県立木曾病院
長野県立須坂病院
諏訪中央病院
市立大町総合病院
川西赤十字病院
下伊那赤十字病院
豊科赤十字病院
長野赤十字病院
飯山赤十字病院
長野県厚生農協連 佐久総合病院
長野県厚生農協連 新町病院
(医療)慈泉会 相澤病院
長野中央病院
長野市民病院
中信勤労者医療協会塩尻協立病院

元山会中村病院
左久市立国保浅間総合病院
国療中信松本病院
昭和伊南総合病院
町菅辰野総合病院
飯田市立病院
城西病院
小海赤十字病院
国保依田建病院
信濃医療福祉センター
長野県厚生農協連 富士見高原病院
長野県厚生農協連 篠井総合病院
医療法人新生病院
長野松代総合病院
健和会病院
波田総合病院
松本協立病院

21. 岐阜県

国療長良病院
国療恵那病院
岐阜県立多治見病院
羽島市民病院
国保関ヶ原病院
大垣市民病院
美濃市立美濃病院
多治見市民病院
土岐市立総合病院
総合病院中津川市民病院
金山町国民健康保険病院
総合病院高山赤十字病院
岐阜県厚生農協連 岐北厚生病院
岐阜県厚生農協連 揖斐総合病院
岐阜県厚生農協連 総合病院昭和病院
岐阜県厚生農協連 総合病院東海中央病院
公立学校共済組合 東海中央病院
木沢記念病院
みどり病院
医療法人藤掛病院
岐阜大学医学部附属病院
岐阜県立下呂温泉病院
国保神岡町病院
(医社)誠広会 平野総合病院
国保坂下病院
岐阜赤十字病院
医療法人社団友愛会 岩砂病院第1
医療法人社団慈朋会 澤田病院
岐阜県厚生連久美愛病院

22. 静岡県

国立東静岡病院
国療天竜病院
静岡県立総合病院
静岡市立静岡病院
沼津市立病院
富士市立中央病院
富士宮市立病院
清水市立病院
共立蒲原総合病院
藤枝市立総合病院
焼津市立総合病院
榛原総合病院
掛川市立総合病院
共立菊川総合病院
袋井市立袋井市民病院
共立湖西総合病院
伊豆赤十字病院
総合病院 浜松赤十字病院
静岡済生会総合病院
総合病院 静岡厚生病院
総合病院 清水厚生病院
遠州総合病院
県西部浜松医療センター
順天堂大学医学部附属順天堂伊豆長岡病院
聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院
聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院
市立伊東市民病院
(社)有隣厚生会 富士病院
浜松医科大学附属病院
浜松労災病院
美蓉協会 聖隷沼津病院
社保松ヶ丘総合病院
社会保険浜松病院

浜松北病院
引佐赤十字病院

23. 愛知県

国立名古屋病院
国立豊橋病院
名古屋大学病院
名古屋通信病院
名古屋市立東市民病院
名古屋市立城北病院
名古屋市立城西病院
名古屋市立大学病院
名古屋市立守山市民病院
岡崎市民病院
公立陶生病院
市立半田病院
春日井市民病院
豊川市民病院
津島市民病院
公立尾陽病院
西尾市民病院
蒲郡市民病院
常滑市民病院
新城市市民病院
尾西市民病院
名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院
愛知県済生会病院
愛知県厚生連 海南病院
愛知県厚生農協連 加茂病院
愛知県厚生農協連 更生病院
愛知県厚生農協連 昭和病院
社保中京病院
名鉄病院
名古屋掖済会病院
総合大雄会病院
刈谷総合病院
東海市市民病院
三菱名古屋病院
トヨタ記念病院
青和会 中央病院
尾張健友会 千秋病院
秋田病院
名南病院
愛世会 渡辺マタニティクリニック
一心会加藤産婦人科病院
碧南市民病院
豊成会竹内病院
医仁会さくら病院
昇樹会産科婦人科上野病院
山田病院
名古屋市立緑市民病院
東海産業医療団中央病院
中部労災病院
N T T 東海総合病院
南生協病院
藤田保健衛生大学病院
愛知県コロニー中央病院
(医療)宝美会 総合青山病院
(医療)志聖会 犬山中央病院
愛知県厚生農協連 尾西病院
愛知県厚生農協連 知多厚生病院
旭労災病院
医療法人財団新和会八千代病院
国立療養所豊橋東病院
成田記念病院
医療法人青山病院
医療法人宏和会山口病院
医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
安藤病院
医療法人渡辺病院
高浜市立病院
愛知医科大学病院

24. 三重県

国療鈴鹿病院
国立三重中央病院
三重県立総合医療センター
三重県立志摩病院
桑名市民病院
市立四日市病院
(総合病院)松阪市民病院
市立伊勢総合病院
尾鷲総合病院

紀南病院  
山田赤十字病院  
三重県厚生連 松阪中央総合病院  
四日市社会保険病院  
山本総合病院  
岡波総合病院  
三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院  
菰野厚生病院  
名張市立病院  
尚豊会みたぎ総合病院  
国療三重病院  
慶応大学伊勢慶応病院  
津生協病院  
医療法人ヨナハクリニック  
鈴鹿回生総合病院

25. 滋賀県

大津市民病院  
近江八幡市民病院  
市立長浜病院  
伊香郡病院組合立湖北総合病院  
公立高島総合病院  
長浜赤十字病院  
済生会滋賀県病院  
社会保険滋賀病院  
誠光会草津総合病院  
国保能登川病院  
重症心身障害児施設第二びわこ学園  
国立滋賀病院  
(医療)彦根中央病院  
守山市民病院  
滋賀医科大学病院  
野洲病院  
国療紫香寮病院  
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院  
日記記念病院  
友仁山崎病院

26. 京都府

市立福知山市民病院  
国立舞鶴病院  
京都大学病院  
京都専攻病院  
京都府立与謝の海病院  
京都市立病院  
公立南丹病院  
市立舞鶴市民病院  
京都第二赤十字病院  
京都第一赤十字病院  
舞鶴赤十字病院  
舞鶴共済病院  
総合病院 日本バプテスト病院  
堀川病院  
総合病院 京都南病院  
(社福)宇治病院  
府立舞鶴こども療育センター  
山元病院  
石鏡会田辺中央病院  
国療南京都病院  
西京都病院  
国療宇多野病院  
京都通信病院  
京都武田病院  
宇治武田病院  
京都社会事業財団 京都桂病院  
公立山城病院  
蘇生会総合病院  
(医療)医仁会 武田総合病院  
関西医科大学附属洛西ニュータウン病院  
(医療)宇治徳洲会病院  
(医療)啓信会 京都きづ川病院  
(医療)医誠会 京都ルネス病院  
武田病院  
金井病院  
社団法人京都保健会京都民医連中央病院  
洛和会 音羽病院  
京都市桃陽病院  
第二岡本総合病院  
医療法人和松会六地藏総合病院  
医聖会京都八幡病院  
医聖会 八幡中央病院  
花ノ木医療福祉センター  
京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門

27. 大阪府

国立大阪病院  
国立大阪南病院  
大阪大学医学部附属病院  
NTT 西日本大阪病院  
大阪府立病院  
大阪府立北市民病院  
大阪府立十三市民病院  
大阪府立大学病院  
市立豊中病院  
大阪府立弘済院附属病院  
市立枚方市民病院  
八尾市立病院  
市立岸和田市民病院  
市立貝塚病院  
市立泉佐野病院  
大阪赤十字病院  
大阪府済生会 泉尾病院  
済生会野江病院  
大阪府済生会 吹田病院  
済生会 茨木病院  
大阪厚生年金病院  
大阪船員保険病院  
大手前病院  
田附興風会 北野病院  
住友病院  
大阪救済会病院  
日本生命済生会 日生病院  
聖パルナハ病院  
大阪府警察協会大阪警察病院  
(財)労働衛生センター第一病院  
(財)淀庭病院  
浅香山病院  
(医療)きっこう会総合病院多根病院  
彰療会 大正総合病院  
同仁会 耳原総合病院  
(医療)杏林会 金岡病院  
宝生会 P.L.病院  
生長会 府中病院  
大阪医科大学病院  
関西医科大学附属香里病院  
関西医科大学病院  
大阪暁明館病院  
大阪回生病院  
淀川キリスト教病院  
真美会 中野こども病院  
寺西報恩会 長吉総合病院  
医誠会摂津医誠会病院  
若弘会若草第一病院  
医真会八尾病院  
三三会森本病院  
錦秀会阪和住吉総合病院  
大阪府立総合医療センター小児循環器内科  
京阪奈病院  
三友会久松病院  
弘雅会寺方生野病院  
市立柏原病院  
仙養会 北摂病院  
有恵会 有沢総合病院  
国立循環器病センター  
大阪北通信病院  
市立松原病院  
和泉市立病院  
高槻赤十字病院  
愛仁会 千船病院  
清恵会病院  
岸和田徳洲会病院  
(医療)有恵会香里ヶ丘有恵会病院  
愛仁会 高槻病院  
近畿大学医学部附属病院  
医療生協うえに病院  
大阪社会医療センター附属病院  
北大阪医療生活協同組合照葉の里箕面病院  
富田林病院  
信愛会 交野病院  
国療千石荘病院  
大阪府立羽曳野病院  
結核予防会大阪府支部大阪病院  
(医療)公道会病院  
誠会 城東中央病院  
大道会 ボバース記念病院  
協和会 北大阪病院  
箕面市立病院

茨木医誠会病院  
信愛会 新生病院  
祐生会 みどりヶ丘病院  
協仁会 小松病院  
守口敬任会病院  
生協こども診療所  
徳洲会 八尾徳洲会総合病院  
阪南市立病院  
新金岡豊川総合病院  
恵生会病院  
仁生会 内藤病院  
医誠会病院  
同友会 共和病院  
紀和会 正風病院  
生長会 ベルランド総合病院  
市立藤井寺市民病院  
暁美会 田中病院  
新仁会 新仁会病院  
大植会 葛城病院  
孟仁会 摂南総合病院  
蒼生病院

28. 兵庫県

国立姫路病院  
明石医療センター  
神戸大学病院  
関西労災病院  
兵庫県立塚口病院  
兵庫県立淡路病院  
兵庫県立西宮病院  
神戸市立中央市民病院  
兵庫県立加古川病院  
明石市立市民病院  
市立三木市民病院  
公立豊岡病院  
西宮市立中央病院  
加古川市民病院  
市立川西病院  
市立伊丹病院  
公立八鹿病院  
公立御津病院  
高砂市民病院  
赤穂市民病院  
市立西脇病院  
市立芦屋病院  
三田市民病院  
姫路赤十字病院  
柏原赤十字病院  
社保神戸中央病院  
公学共済 近畿中央病院  
神戸救済会病院  
(医療)川崎病院  
総合病院 昭和病院  
(医療)明和病院  
鐘紡記念病院  
広畑新日鉄病院  
石川島播磨重工業健保組合播磨病院  
上田病院  
医療法人芙蓉会 木山病院  
西神戸医療センター  
通寿リハビリテーション病院  
佐野伊川谷病院  
樹徳会上ヶ原病院  
兵庫医科大学篠山病院  
協和会協和マリナホスピタル  
清和会 笹生病院  
淡路平成会 東浦平成病院  
神戸赤十字病院  
(医療)一葉会 佐用共立病院  
砂子療育園  
自衛隊 阪神病院  
兵庫県立こども病院  
公立社病院  
公文病院  
兵庫医科大学病院  
(医療)薫風会 佐野病院  
明舞中央病院  
(医療)尚和会 宝塚第一病院  
尼崎医療生協病院  
(医療)協和会 協立病院  
神鋼加古川病院  
仙齡会 はりま病院  
国立療養所青野原病院  
兵庫県立柏原病院

東神戸病院  
国立神戸病院  
神戸朝日病院  
神戸アドベンチスト病院  
真星病院  
医療法人 パルモア病院  
宝塚市立病院  
中町赤十字病院  
平成病院

29. 奈良県

国立奈良病院  
奈良県立医科大学病院  
橿原町立橿原総合病院  
大和高田市立病院  
町立大淀病院  
済生会 奈良病院  
奈良社会保険病院  
土庫病院  
奈良県心身障害者リハビリテーションセンター  
国保中央病院  
国療西奈良病院  
天理市立病院  
奈良県立奈良病院  
奈良県立五條病院  
高の原中央病院  
奈良県立三室病院  
東生駒病院  
済生会 中和病院  
済生会 御所病院  
清心会 桜井病院  
友誼会病院

30. 和歌山県

和歌山県立医科大学病院  
和歌山県立医科大学病院紀北分院  
公立那賀病院  
国保橋本市立病院  
有田市立病院  
国保日高総合病院  
社保紀南総合病院  
日本赤十字社和歌山医療センター  
白浜はまゆう病院  
富田会富田病院  
労働福祉事業団 和歌山労災病院  
和歌山生協病院

31. 鳥取県

鳥取大学病院  
鳥取県立中央病院  
鳥取県済生会 境港総合病院  
博愛病院  
鳥取生協病院  
国療西鳥取病院

32. 鳥根県

大田市立病院  
国立浜田病院  
松江市立病院  
平田市立病院  
仁多町立仁多病院  
公立雲南総合病院  
松江赤十字病院  
済生会 江津総合病院  
津和野共存病院  
東部鳥根心身障害医療福祉センター  
吉生会吉岡病院  
町立広瀬病院  
鳥根医科大学病院  
国療松江病院  
西部鳥根心身障害医療福祉センター  
松江記念病院  
益田地域医療センター医師会病院

33. 岡山県

国立病院岡山医療センター  
総合病院 岡山市立市民病院  
倉敷市立児島市民病院  
市立井原市民病院  
総合病院 岡山赤十字病院  
川崎医科大学附属川崎病院  
(財)倉敷中央病院  
(財)弘仁会 総合病院玉島病院

総合病院 津山中央病院  
光生病院  
(医)水と会 水島中央病院  
水島第一病院  
新見中央病院  
総合病院 落合病院  
総合病院 水島協同病院  
さとう記念病院  
ペリネイト母と子の病院  
国保町立成羽病院  
十全会心臓病センター榊原病院  
市立玉野市民病院  
同仁会 金光病院  
旭川荘養育センター児童院  
美作中央病院  
川崎医科大学病院  
国立療養所南岡山病院  
重井医学研究所附属病院  
(財)仁厚医学研究所 児島中央病院  
倉敷成人病センター  
川鉄水島病院  
和香会 倉敷廣済病院  
笠岡中央病院  
岡山労災病院  
倉敷北病院

34. 広島県

国立病院呉医療センター  
国立福山病院  
国療原病院  
国療広島病院  
広島大学病院  
広島鉄道病院  
広島通信病院  
県立広島病院  
県立安芸津病院  
社保広島市民病院  
公立三次中央病院  
総合病院 三原赤十字病院  
総合病院 庄原赤十字病院  
広島厚生連農協 尾道総合病院  
厚生連 広島総合病院  
広島県厚生連協連 吉田総合病院  
日立造船健保因島総合病院  
広島記念病院  
呉共済病院  
中国電力株式会社 中電病院  
三菱三原病院  
マツダ株式会社 マツダ病院  
呉芸南病院  
済生会広島病院  
真愛病院  
国保上下病院  
尾道市立市民病院  
広島市立舟入病院  
福山市市民病院  
広島医療生協広島共立病院  
広島市立安佐市民病院  
中国労災病院  
県立身体障害者リハビリテーションセンター  
公立学校共済組合 中国中央病院  
神原病院  
総合病院三愛  
多田病院  
公立みつぎ総合病院  
あかね会 土谷総合病院  
松田病院  
樹章会 本永病院  
里仁会 興生総合病院  
福山循環器病院

35. 山口県

国立下関病院  
山口大学病院  
山口県立中央病院  
下関市立中央病院  
総合病院 光市立病院  
小野田市立病院  
山陽中央総合病院  
共立美東国保病院  
総合病院 山口赤十字病院  
周東総合病院  
小郡第一総合病院

長門総合病院  
社保徳山中央病院  
神徳会 三田尻病院  
新南陽市民病院  
山口労災病院  
和同会山口リハビリテーション病院  
美祢市立病院  
至誠会梅田病院  
山口県済生会豊浦町立病院  
国療山陽病院  
都志見病院  
元洋会 森山病院  
宇部興産 中央病院  
町立大和総合病院  
宇部協立病院

36. 徳島県

徳島大学病院  
徳島県立中央病院  
徳島県立三好病院  
徳島市民病院  
町立半田病院  
徳島赤十字病院  
阿南共栄病院  
厚生連 麻植協同病院  
健保鳴門病院  
道志社リハビリテーション大神子病院  
徳島県立海部病院  
(医療)原田病院  
阿波病院  
田時病院  
徳島県立ひのみね整肢医療センターひのみね学園  
(医)静可会 三加茂田中病院

37. 香川県

国立善通寺病院  
香川県立中央病院  
土庄中央病院  
総合病院 坂出市立病院  
高松赤十字病院  
屋島総合病院  
滝宮総合病院  
麻田総合病院  
内海病院  
国療香川小児病院  
香川県済生会病院  
坂出聖マルチン病院  
香川医科大学病院  
香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター医療センター  
香川町国民健康保険香川病院  
高松平和病院  
大樹会総合病院 回生病院  
香川井下病院

38. 愛媛県

国立病院四国がんセンター  
愛媛県立中央病院  
愛媛県立今治病院  
愛媛県立伊予三島病院  
久万町立病院  
市立八幡浜総合病院  
町立野村病院  
市立宇和島病院  
町立津島病院  
松山赤十字病院  
西条中央病院  
住友別子病院  
新居浜協立病院  
国療南愛媛病院  
公立学校共済組合四国中央病院  
愛媛労災病院  
山内病院  
更生会 村上記念病院  
公立南桑病院  
総合病院 松山市民病院  
北辰会 まなべ病院  
済生会今治病院  
美須賀病院  
大洲市立大洲病院

39. 高知県

国立高知病院

高知県立中央病院  
高知市立市民病院  
土佐市立土佐市民病院  
高知県農協総合病院  
高知市立中央病院  
幡多けんみん病院  
岡本会さくら病院  
(医療)仁生会 三愛病院  
高知医科大学病院  
高知県立安芸病院  
長生会 大井田病院

40. 福岡県

国立小倉病院  
国立病院九州医療センター  
国療南福岡病院  
国療福岡東病院  
久留米大学医療センター小児科  
九州大学病院  
福岡通信病院  
福岡県立柳川病院  
北九州市立門司病院  
北九州市立医療センター  
北九州市立八幡病院救命救急センター  
大牟田市立総合病院  
町立額田病院  
筑後市立病院  
公立八女総合病院  
福岡赤十字病院  
筑前山田赤十字病院  
福岡県済生会八幡病院  
福岡県済生会 福岡総合病院  
九州厚生年金病院  
新小倉病院  
浜の町病院  
公立学校共済 九州中央病院  
小倉中井病院  
福岡島飼病院  
福岡記念病院  
聖マリア病院  
久留米大学病院  
三井大牟田病院  
麻生セメント(株)飯塚病院  
社保小倉記念病院  
宗像医師会病院  
宗像水光会総合病院  
日新会 久留米記念病院  
九州労災病院  
千早病院  
恵光会 原病院  
国立病院九州がんセンター  
慈恵曾根病院  
正信会 水戸病院  
ゆうかり学園  
町立芦屋中央病院  
産業医科大学病院  
福岡大学病院  
北九州総合病院  
北九州市立総合療育センター  
福岡市立こども病院・感染症センター  
米の山病院  
太刀洗病院  
丸山病院  
高邦会 高木病院  
健和会 大手町病院  
牧山中央病院  
川崎町立病院  
甘木朝倉医師会病院  
西野病院  
福岡市民病院  
牟田病院  
和白病院  
菅原病院  
水巻共立病院  
健和会京町病院  
新田原聖母病院  
福岡県立柏屋新光園  
井上会 藤栗病院  
福岡大学筑紫病院  
相生会 宮田病院  
系田町立緑ヶ丘病院  
社会保険田川病院

41. 佐賀県

国立佐賀病院  
国立嬉野病院  
佐賀県立病院 好生館  
伊万里市立市民病院  
西有田共立病院  
佐賀社会保険病院  
ひらまつ病院  
佐賀整肢学園  
古賀小児科内科病院  
国療東佐賀病院  
佐賀医科大学病院  
清明会 やよいがおか鹿毛病院  
佐賀済生会 唐津病院  
静便堂 白石共立病院  
順天堂病院  
至慈会 高島病院

42. 長崎県

国立病院長崎医療センター  
国療川棚病院  
長崎大学病院  
長崎市立市民病院  
佐世保市立総合病院  
五島中央病院  
苓岐公立病院  
健保健康総合病院  
長崎記念病院  
(医療)白十字会佐世保中央病院  
医療法人栄和会泉川病院  
柴田長庚堂病院  
国保平戸市民病院  
医療法人医理会 柿添病院  
日赤長崎原爆病院  
井上病院  
長崎県立島原温泉病院  
長崎県済生会病院  
日浦病院  
謙早療育センター  
みさかえの園あゆみの家  
中対馬病院  
対馬いづはら病院  
田上病院  
萌愛会長崎セント・ノーヴァ病院  
平成会 女の都病院  
赤木病院

43. 熊本県

国立熊本病院  
国療再春荘病院  
熊本大学医学部附属病院  
N T T 西日本九州病院 小児科  
熊本市市民病院  
菊水町立病院  
荒尾市民病院  
小国公立病院  
球磨郡公立多良木病院  
上天草総合病院  
国保河浦町立病院  
熊本赤十字病院  
八代総合病院  
熊本中央病院  
熊本労災病院  
愛育会 福田病院  
くわみず病院  
熊本循環器科病院  
杉村会杉村病院  
天草地域医療センター  
谷田会谷田病院  
聖和会有明成仁病院  
襲明会宇賀岳病院  
牛深市民病院  
坂本病院  
芦北学園発達医療センター  
熊本地域医療センター  
公立玉名中央病院  
山鹿市立病院  
国療菊池病院  
坂梨会 阿蘇温泉病院  
はまゆう療育園  
熊本託麻台病院  
玉名地域保健医療センター  
菊池中央病院

44. 大分県

国立別府病院  
中津市立中津市民病院  
東国東広域国保総合病院  
山香町立国保総合病院  
大分赤十字病院  
佐賀関町国保病院  
大分こども病院  
大分県済生会日田病院  
別府発達医療センター  
大分市医師会立アルメイダ病院  
大分医科大学病院  
大分健生病院  
健保南海病院  
西田病院  
医療法人財田天心堂へつぎ病院  
大分岡病院  
長門真記念会 長門記念病院  
竹田医師会病院

45. 宮崎県

県立宮崎病院  
県立延岡病院  
県立日南病院  
小林市立市民病院  
高千穂町国保病院  
都城市郡医師会病院  
育生会井上病院  
耕和会迫田病院  
県立こども療育センター  
国療宮崎病院  
国療宮崎東病院  
宮崎医科大学付属病院  
宮崎県済生会日向病院

46. 鹿児島県

国立病院九州循環器病センター  
国立指宿病院  
鹿児島大学病院  
鹿児島市立病院  
八反丸病院  
オレンジ学園  
鹿児島こども病院  
国分生協病院  
沖永良部徳州会病院  
川内市医師会立市民病院  
隼人町立医師会医療センター  
徳洲会名瀬徳洲会病院  
県立大島病院  
総合病院鹿児島生協病院  
やまびこ医療福祉センター  
済生会 川内病院  
鹿児島市医師会病院  
鹿児島県立薩南病院  
県立北薩病院  
徳洲会 鹿児島徳洲会病院  
医療法人徳洲会徳之島徳洲会病院

47. 沖縄県

北部病院  
球陽会 海邦病院  
糸数病院  
社団法人北部地区医師会病院  
沖縄セントラル病院  
県立北部病院  
総合病院沖縄赤十字病院  
琉球大学病院  
沖縄県立宮古病院  
沖縄県立那覇病院  
県立八重山病院  
沖縄協同病院  
沖縄整肢療護園  
友愛会 豊見城中央病院  
もとぶ野毛病院  
与勝病院  
国立療養所沖縄病院  
中部徳洲会病院  
潮平病院  
沖縄県立沖縄療育園  
医療法人信和会沖縄第一病院  
八重瀬会 同仁病院

# 川崎病調査票（第17回全国調査）

お願い

- 平成13年1月1日～平成14年12月31日の2年間に発症し貴施設を受診した患者全員について記入して下さい。
- 症例がない場合も本調査票のQ1.「施設に関する質問」をご記入の上、ご返送下さい。
- 他施設へ紹介した患者、他施設から紹介された患者も含めます。

←住所、電話番号の誤りは朱書にてご訂正下さい。

返送先

〒329-0498 (自治医大専用郵便番号)  
 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1  
 自治医科大学公衆衛生学教室気付  
**川崎病研究班 疫学調査事務局 宛**  
 Tel (0285-44-6192, 0285-58-7338)  
 Fax (0285-44-7217)

NO.	患者氏名 イニシャル 姓・名の順	発病時患者住所 (番地は省略)	性	生年月日	初診年月日	初診時 病日	退院時 病日	主要症状 (該当するものすべてに○)	診断の 確実度*	ガンマグロブリン投与(貴院分) 投与ありの場合	今回の 発症	同胞例	両親の川崎病 既往歴	心障害(該当するものすべてに○)		死亡+
														急性期(1ヵ月以内)	後遺症(1ヵ月以降)	
		都道府県 市郡 区町村	1男 2女	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	__ 病日	__ 病日	1 発熱(有熱期間: __日間) 2 眼球結膜充血 3 口唇・口腔所見 4 不定形発疹 5 四肢末端の変化 6 頸部リン節腫脹	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 2 あり	初回投与(貴院分) 投与開始__病日 1日__mg/kg×__日 追加投与 1なし 2あり	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり(父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤# 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤# 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 あり
		都道府県 市郡 区町村	1男 2女	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	__ 病日	__ 病日	1 発熱(有熱期間: __日間) 2 眼球結膜充血 3 口唇・口腔所見 4 不定形発疹 5 四肢末端の変化 6 頸部リン節腫脹	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 2 あり	初回投与(貴院分) 投与開始__病日 1日__mg/kg×__日 追加投与 1なし 2あり	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり(父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 あり
		都道府県 市郡 区町村	1男 2女	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	__ 病日	__ 病日	1 発熱(有熱期間: __日間) 2 眼球結膜充血 3 口唇・口腔所見 4 不定形発疹 5 四肢末端の変化 6 頸部リン節腫脹	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 2 あり	初回投与(貴院分) 投与開始__病日 1日__mg/kg×__日 追加投与 1なし 2あり	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり(父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 あり
		都道府県 市郡 区町村	1男 2女	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	__ 病日	__ 病日	1 発熱(有熱期間: __日間) 2 眼球結膜充血 3 口唇・口腔所見 4 不定形発疹 5 四肢末端の変化 6 頸部リン節腫脹	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 2 あり	初回投与(貴院分) 投与開始__病日 1日__mg/kg×__日 追加投与 1なし 2あり	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり(父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 あり
		都道府県 市郡 区町村	1男 2女	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	__ 病日	__ 病日	1 発熱(有熱期間: __日間) 2 眼球結膜充血 3 口唇・口腔所見 4 不定形発疹 5 四肢末端の変化 6 頸部リン節腫脹	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 2 あり	初回投与(貴院分) 投与開始__病日 1日__mg/kg×__日 追加投与 1なし 2あり	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり(父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 あり
		都道府県 市郡 区町村	1男 2女	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	__ 病日	__ 病日	1 発熱(有熱期間: __日間) 2 眼球結膜充血 3 口唇・口腔所見 4 不定形発疹 5 四肢末端の変化 6 頸部リン節腫脹	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 2 あり	初回投与(貴院分) 投与開始__病日 1日__mg/kg×__日 追加投与 1なし 2あり	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり(父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 あり
		都道府県 市郡 区町村	1男 2女	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	__ 病日	__ 病日	1 発熱(有熱期間: __日間) 2 眼球結膜充血 3 口唇・口腔所見 4 不定形発疹 5 四肢末端の変化 6 頸部リン節腫脹	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 2 あり	初回投与(貴院分) 投与開始__病日 1日__mg/kg×__日 追加投与 1なし 2あり	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり(父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 あり

## Q1. 施設に関する質問 (本調査票を2枚以上使用の場合は1枚目にご記入下さい)

- 貴院のベッド数はいくつですか。 病院全体\_\_床 小児科一般病床\_\_床
- 貴院の小児科医は何人ですか。 常勤小児科医\_\_人 非常勤小児科医\_\_人
- 貴院では川崎病患者に対するガンマグロブリンの基本的な投与方式を決めていますか。  
1 はい ( \_\_mg/kg×\_\_日間 ) 2 いいえ
- 貴院ではガンマグロブリン不応例に対して原則的にどのように対応していますか。  
1 ガンマグロブリン追加投与 2 ステロイド投与 3 ウサチン投与 4 γグロブリン等で様子を見る  
5 その他 ( )
- 貴院では第5病日までに川崎病を疑った場合、診断基準を満たさなくてもガンマグロブリンを投与しますか。  
1 はい 2 いいえ
- 貴院におけるガンマグロブリン投与時のγグロブリン投与量を記入して下さい。 \_\_mg/kg/日

※発熱 37.5度以上の熱が5日以上続くか、または治療により5日未満で解熱したと考えられる場合、「あり」として下さい。  
 \*診断の確実度 ( 確実A: 6つの主要症状のうち5つ以上の症状あり  
 確実B: 4つの症状しかないが冠動脈瘤(拡大)を伴う ) として記入して下さい。  
 容疑: 診断の手引きに合致しないが疑いがある  
 #巨大瘤 巨大瘤は直径8mm以上の冠動脈瘤をいいます。  
 +死亡 「あり」の場合はQ2.「死亡例に関する質問」の欄にも記入して下さい。

## Q2. 死亡例に関する質問 (今回の報告のみでなく、前回までの調査で生存として報告され、後に死亡した例も含めてご記入下さい)

患者氏名(イニシャル) 姓・名の順	性	生年月日	川崎病初診年月日	死亡年月日	剖検の有無	死亡原因、剖検の施設名など
	1男 2女	昭・平__年 __月__日	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	1 なし 2 あり	
	1男 2女	昭・平__年 __月__日	昭・平__年 __月__日	平成__年 __月__日	1 なし 2 あり	